

校長室だより

No. 36

平成 28 年 1 月 29 日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

か とう よし かず
加 藤 嘉 一

子供の育ちと学び - 1 年 図工科 「紙版画」教材にふれて-

今週、いつものように教室に回っていくと、1年生が図工の授業をしていました。今は、紙版画製作です。製作途中の作品を見て驚きました。なんと、一輪車に乗る自分を紙版画で表していました。何に驚いたかという、絵の中の一輪車と足の関係です。(右写真)

一輪車を中心に考えると、右足は一輪車の向こう側、左足は一輪車のこちら側。子供の発達段階を考えると、3次元の空間にあるものを、立体的な物の重なりとして表していくことができるようになるのは、中学年くらいからだ聞いたことがあります。画用紙に絵を描く場合は、右足、一輪車、左足の順や、



隠れる部分の想像が難しく、右足の上に一輪車の線が重なるなど、2次元(平面)に全ての線がかかれるのが普通です。この紙版画でも、ほかっておけば一輪車のタイヤの上に両足の紙をはってもおかしくありません。床を見ると白画用紙で一度練習製作した跡がありました。担任の先生は忙しくぐるぐる一人一人の作品作りを支援しています。ていねいに段取りを取って授業を展開してくれていることがわかります。手を出しすぎてもいけません。この微妙なさじ加減が難しい。眼に見えない支援がここに 있습니다。

絵ではなく「紙版画」という教材だからこそ、右足・タイヤ・左足といった重なり順のような、子供にとって未発達の空間概念を表現することができるのでしょ。個人差があるにしても、1年生の子たちが絵に表現することは、とても難しいことです。しかし、今回の紙版画を作ったり鑑賞したりする経験のなかで少しずつ学んでいきます。

こうしてみると、小学校の低学年でこの「紙版画」を教材にしようと考えた人がすごいと思うのです。どうも何十年か前に、だれかが開発したようです。つくづく、わたしたち教員は、子供の力をとらえること、子供の力を伸ばすことのできる教材の開発、一人一人を伸ばす指導方法の研究を続けていくことの大切さを感じました。担任の先生方の苦勞は、ずっと続きます。

一方的に知識を伝えるだけの授業は、何十年も前に見直しを迫られました。わたしたちの教員としての力量は、本を読んで学ぶだけではできません。子供と対峙し、子供の力を読み取り、感じ、「この子供たちには、こうしたことがよいのではないか」という試行錯誤が大切になってきます。

うまくいくことばかりではありません。たいてい1年ごとに、指導する子供たちは変わるわけですし、家庭環境の変化や様々な変化があれば、子供の意識や状況は変わります。もちろん、子供の身のまわりの生活様式・環境は、時代とともに変わり、子供の生活自体が変わります。出会わせる教材も、よくよく考えなければなりません。わたしたち教員が、「一生勉強していかないといけない」といわれるのは、こうしたところにあるのかもしれない。

環境と子供の学び —ジャンピングボード—

教材と近いものですが、もうひとつ。
今休み時間には運動場の一角に行列ができています。それは、なわとび練習用の「ジャンピングボード」。たくさんの子供たちが、これを使って跳びたくて、長い列を作っているのです。トランポリンのはずみより少し硬くした感じです。これを使うと、リズムよく高く跳ぶことができます、とても気持ちがよい。こつをつかんだ子は、三重跳びまでらくらくやっているのが驚きます。買うと数万円もするそうなので、鈴木智記先生らが6年前から少しずつ作ってくれたと聞きました。これまでの中部小学校の先生方に脱帽です。自主的に子供たちがやりたくなる教具を手作りしていたなんて。これからも、いろいろな教科の思わずやりたくなるグッズを考え、環境づくりをしていきたいと考えています。



少人数指導（算数）の充実を図ります II

本校では、6・4年生の算数で少人数指導授業を行っています。学習の内容と発達段階を考慮し、現在6年生は少人数分割型（1つの学級を2つに分ける）を取り入れています。4年生においても、年度末に向けて、子供の習熟に即した対応をするために、これまで行っていたTT（チーム・ティーチング）型から、個別指導を含めた少人数分割型の授業をし、効果をあげたいと考えます。

御理解ください。